

情報社会と私

グループ：1

名前：グエン スァン ルーン

1. 紹介分

社会といえば、広い意味を感じている。社会に出るという言葉がよく耳にするが。実際は世の中でいろいろな社会に分かれている、様々な〇〇社会が形成されていく、例えば、労働社会、情報社会、若者社会、高齢社会 といえるのだろう。しかし、人間が生きる間には一つの社会に存在するわけではない。いろいろな社会にぶつかり、成長していくのである。私は今とっても大切な社会は情報社会である。情報社会という言葉が初めて米国で使われ始めてからおよそ半世紀、ワットの蒸気機関の発明に始まった産業革命が工業社会の実現をもたらしたように、大量の情報を迅速に収集、処理・加工し、伝達する技術の急激な革新は、今また、新しい社会の到来を促している。情報社会とは何か。情報社会とは、情報が諸資源と同等の価値を有し、それらを中心として機能する社会のこと。また、そのような社会に変化していくことを情報化という定義もあった。狭義には、そのような社会へと変化しつつある社会を情報化社会とし、そのような社会を情報社会と定義して区別する場合がある。この場合は情報社会を発展させたものを高度情報化社会、高度情報社会と呼ぶこともある。

なぜ、私にとって情報社会がだいじなのか。それは親の元に離れ、自分自身が生活を管理しなければならない。そのために回りの情報を収集し、正しい生活に向かっていくべきだと思うからである。さらに現代の流れにも入り込むことには、コミュニケーションが欠かせないと思っている。この情報を私たちにもたらしてくれるのは人間である。仲間である。そのような仲間から情報を得るためには、まず自ら相手に与えることを心がけなければいけないと思う。このような基本姿勢を継続すれば、私たちはたくさんの有力な情報を得ることができ、結果して収益を獲得できる。

2. 話し合いの結果

私の班の皆さんは 2 回散歩してきた。第一回目、千秋公園と駅のまわりに見に行った。公園はどの社会に関係するのか。まず、千秋公園で休みの日やお祭りのとき、人々が集まり、景色と楽しむのである。中には若者がたくさんいるのだ。若者社会が見える一方、情報社会もあるはずだ。その日、公園が静かでいい景色だった。時には、人が散歩する姿が見えた。みんなは一瞬日常のことを忘れ、自然の中に入りこんだそうである。私たちもそういうことを感じた。

次は駅の周りを散歩した。第一印象は人が多く、建物や販売店などがたくさんあることだ。現代の流れの一部を感じた。情報が様々な方法で広がってくるのだ。駅には若者が多

く集まり、遊び時間を過ごしているのである。若者に人気されているカラオケ店も見に行った。客を引き付けるには目立つ看板を工夫にした。まず、お客に十分な情報を伝えるのだ。さらに、店の特徴もアピールした。私たちはそのような情報に引かれたようだ。

第二目の散歩はタワーレコードに行った。歌手アイドルの曲を鑑賞できるのである。歌の力は言葉や国境の壁を越えて、違う国の人々の心を感動させた。みんなの班は音楽が好きで徐々に夢中になっているのだ。そして、駅の前にある料理の店に行った。みんなはそれぞれ好きな料理を食べた。やはり、その店の料理が安く、おいしいので人気がある。年齢を問わず、いつも、混んでいるのだ。さらに、駅の近くにあるからこそ、店についての情報が広がっていくことで多くの方は店の料理を知ってきた。

3.話し合いの結果

グループのみんなは今何に興味を持っているのかを話し合った。中には、マスコミの話が特徴だった。アイドルやドラマの話により、今、若者はどういうのに関心を持っているのかがわかってきた。グループのほかの人の具体的な話を通じて、どのきっかけで、その社会を選んだのかが分かった。たとえば、前はその社会を知ったが、あまり関心を持たなかった。しかし、その社会に衝突し、周りの人の影響を受け、だんだん興味を持つようになったというグループの人がいる。

4.情報社会と私

私も情報社会を気になるのは最近のことだった。生まれた時から、親の元には離れることはなかったため。実際の社会がどういうのものなのかがよくわからなかった。学校に通い、勉強のことや友達との遊びばかりだった。ある時、お金を稼いでみたい、仕事をやった。そして、いろいろ人に接することができた。これをきっかけにして人とのコミュニケーションの大切さがわかってきた。その人たちはなぜこの大変なことをやっていたのかを聞いた。ただ仕事が少ないや生まれたところに離れたくないなどという答えが返ってきた。16歳ぐらいから年がある人までがいた。みんなは貧しいので、勉強なんかが無理なことだった。そして、子供たちはきちんと学校に行くことが欲しがっているという母親の顔を見て、私の中には何かが変わった。表せない感覚だった。この話を同情しながら自分のことを振り変えた。高校を卒業して以来自分自身は自分の生活を管理することやどのように正しい生活を送るのか、さまざま情報が必要になる。さらに日本に来てから、いろいろことは初のことだった。そのことについて全然わからないため、生活がうまくいかなかった。人間関係や生活のリズムをいつも求めている。文化が違いにつれて、地元の人々の考えも別の世界にあったのようだ。たとえば、挨拶さえも違いの。自分は一日こんなに挨拶という習慣はなかなかない。さらに、日本語学校で勉強し、いろいろな人と出会い、友達との関係がうまくいくため、ほかの国の文化やその国の情報についても勉強しなければいけない。それから、頭が柔らかくして、異文化を理解しなければならない。

大学を受験するときも大変だった。どの教科書を勉強したらいいのか、どの勉強仕方がいかなどがわからなかった。それから、大学により、いろいろ手続をしなければならない、現地までに行かなければならないのだ。その時、行く方法や泊るところなどを友達や先輩の経験を聞き、自分が情報を確かめることで自分が成長していくのだ。大学の生活も決して簡単なことではない、環境がまた変わった。新しい情報を取得しなければいけない。アルバイトを探すことや勉強を頑張ることなどは大変だった。それから、仕事と勉強をバランスをとることは大切だと思う。同じクラスやグループの人とどうやって活躍するのか。これは簡単ではない。

新しい環境で生きるため、自分は情報を取得し、人とのコミュニケーションを交流することは何よりも大事だと思った。これからも自分が情報社会に衝突するのは激しくなると思う。

5.社会とは何か

社会は多くの人が集めることで、お互いに活躍し、利点を向ける団体という概念がわかる。社会は均質なシステムではなく、多様性からなるプロセスであるという。社会にはいろいろな物が存在する。一人ひとり社会に生きるために、自分の欠点をなくさなければいけないのだ。